

会社案内 株式会社 東配
Corporate Guide



ごあいさつ



代表取締役社長 渡辺誠治

◆激動の時代であるからこそ ますます高まる物流の重要性

少子高齢化に伴う人口減少や経済の低成長をはじめ、生産活動の海外シフト、さらに生産品の軽薄短小化やサービス経済化といったさまざまな動向により、国内貨物輸送トン数が10年前と比較して3/4にまで減少するなど、現在の物流業界は決して順境とは言えない状況下にあります。

しかし、こうした状況であるからこそ物流にはさらなる効率化が求められ、自家用トラック輸送から営業用トラック輸送へのシフトが進んだ結果、トラック輸送事業の市場規模は15兆円にまで成長し、シェアを伸ばしています。また、東日本大震災での経験により、災害時における緊急輸送の重要性が改めて認識され、その体制維持には万全を期す必要を感じています。

物流は、人間の体で例えるならば血液の流れに等しく、経済を活性化する働きを担うとともに、文字通りのライフライン機能をも果たすものです。激動の時代であるからこそ、物流の重要性は今後ますます高まっていくと考えられます。その一端を担う企業として社会的責任を果たせるよう、私たち東配は、これからも時代の潮流に敏感に対応した経営を目指してまいります。

◆これからの物流トレンドは 「汎用センター+フルライン化」

当社は創業以来、正確かつ効率的な共同物流を核として、さまざまな顧客ニーズや課題に応え続けてきました。その提案力・対応力が厚い信頼につながり、現在では大手食品メーカーなど約1000社にもおよぶお客様が当社の物流システムをプラットフォームとして利用されています。

当社では、これからの物流トレンドを「専用センターから汎用センター+フルライン化へ」というキーワードで捉え、プラットフォーム化された共同物流事業を一層推進してまいります。その基盤となるのは、充実した拠点と物流ネットワーク、そして最先端の物流情報システムです。ハード面としては、全国7カ所に低温センターを設置し、これらの拠点を軸に協力会社約100社との業務提携で信頼度の高い物流ネットワークを構築しています。ソフト面としては、独自の輸配送管理システム（TMS）により、季節的な変動や日々の物量変化に対応して最適な配送コースを構築し、輸配送コストの最小化を実現しています。

また、食品専門の3PL事業者として「安全・安心」という視点から貨物の品質管理や適正在庫量の管理などを徹底すべく、長年にわたって蓄積した管理マニュアルや最新の物流倉庫管理システム（WMS）を活用しています。これに加え、温度帯変更や流通加工機能と関連倉庫会社の保税・超冷凍・冷凍・チルドといった多様な保管機能を組み合わせ、ライフスタイルの変化に伴う簡便性の追求など食品業界のさまざまなニーズに対応し、お客様に最適な物流ソリューションを提案しています。

私たち東配は、一度お約束した提案は必ず守る「確かな実行力」と優れた社員による「適切な対応力」を生かし、お客様に信頼していただけるイコールパートナーとして、これからも「顧客満足度 No.1」を目指してまいります。

会社概要

社名	株式会社 東配
設立	昭和45年6月23日
資本金	払込資本金 4,200万円
売上高	44億5,700万円（平成30年度） グループ計59億7,400万円（内(株)岡崎運輸15億1700万円）（平成30年度）
主要営業種目	(1) 一般貨物自動車運送事業 (2) 第一種貨物利用運送事業 (3) 市場取扱品荷受代行及び荷役業務 (4) 物流情報処理業務 (5) 包装資材販売業務
役員	代表取締役社長 渡辺 誠治 代表取締役専務 菊地 好夫 常務取締役 佐藤 博史 取締役 鈴木 文史朗 監査役 鈴木 新一郎
営業拠点	(1) 本社 仙台市若林区卸町四丁目8-12 (2) 第3低温センター 仙台市若林区卸町四丁目1-12 (3) 札幌営業所 札幌市中央区北12条西19丁目 (4) 盛岡支店 盛岡市湯沢16地割15-5 (5) 成田空港営業所 成田市成田国際空港内第2貨物代理店ビル220号室 (6) 成田低温センター 成田市山之作字仲台270-3 (7) (株)岡崎運輸 塩釜市新浜町1丁目27番地1
所有施設	(1) 第1低温センター（本社） ●総敷地面積 6,266.94m ² ●延べ床面積 2,957.75m ² ●冷温倉庫（+5℃）1,382.00m ² (2) 第2低温センター ●延べ床面積 2,050.88m ² ●冷温倉庫（+10℃）588.00m ² ●冷凍倉庫（-25℃）200.00m ² (3) 第3低温センター ●総敷地面積 6,632.00m ² ●延べ床面積 4,347.27m ² ●冷温倉庫（+5℃）2,018m ² 垂直搬送機1機 ●チルド庫（0～-5℃）180m ² ●冷凍倉庫（-30℃）480m ² 保管能力 1,140ト (4) 札幌低温センター（札幌営業所） ●総敷地面積 850.90m ² ●延べ床面積 513.21m ² ●冷温倉庫（+5℃）209.00m ² ●冷凍倉庫（-25℃）148.00m ² (5) 盛岡低温センター（盛岡支店） ●総敷地面積 6,886.87m ² ●延べ床面積 2,540.34m ² ●冷温倉庫（+0℃）165.00m ² ●冷温倉庫（+5℃）235.00m ² ●冷温倉庫（+10℃）1,052.00m ² ●冷凍倉庫（-25℃）347.00m ² (6) 成田低温センター（成田営業所） ●総敷地面積 3,958.42m ² ●延べ床面積 493.29m ² ●冷温倉庫（+5℃）232.00m ² ●荷受室 170.00m ² (7) 塩釜低温センター（(株)岡崎運輸） ●総敷地面積 5,579.52m ² ●延べ床面積 1,892.20m ² ●冷温倉庫（+0℃）33.00m ² ●冷温倉庫（+5℃）707.00m ²
従業員数	245名（正社員215名：男子181名：女子34名）（臨時社員31名：男子26名：女子5名）
車輦運搬機器	車輦総台数 161台 営業用車輦 67台、連絡車輦 9台、フォークリフト・モートルック 85台

沿革

昭和44年	1月	仙台市中央卸売市場（主として仙都魚類（株）） 物流効率化のニーズ高まる	平成9年	4月	盛岡低温センター第2次増築工事完成（現：盛岡支店）
	3月	関連個人運送事業者による共同運送開始（東北便）		8月	株式会社 塩釜東配設立登記 （旧塩釜営業所：現（株）岡崎運輸）
	6月	仙都魚類（株）輸送部として組織化		12月	株式会社 塩釜東配、有限会社 岡崎運輸統合 （東配グループ（株）岡崎運輸） ※株式会社 岡崎運輸設立
昭和45年	1月	市場卸会社の公共性を考慮し、別会社として独立	平成10年	5月	仙都ロジスティックス室開設
	5月	市場内荷役業務受託 特定貨物運送事業免許（車輛15台）	平成11年	9月	資本金 4,200万円に増資
	6月	会社設立 社名：東北配送センター株式会社発足 （資本金700万円） 本社：仙台市宮城野一丁目 〔仙都グループ本部3F〕	11月	仙台空港営業所開設 盛岡支店、低温センター第3次増築工事完成	
昭和46年	5月	仙台トラック事業協同組合に加盟	12月	第3低温センター増築工事完成	
昭和48年	11月	本社移転 （仙台市若林区卸町四丁目：仙台トラック団地へ）	平成12年	5月	各施設、及び輸送車輛での温度トレース開始
	12月	仙都魚類（株）と市場荷役作業契約 （市場事業部発足）	7月	札幌低温センター完成	
昭和49年	4月	八戸便開始	平成13年	4月	塩釜低温センター完成 ※株式会社 岡崎運輸移転
	9月	札幌定期便開始	11月	成田低温センター完成	
	12月	自動車運送取扱事業登録	平成15年	1月	環境運行監視システム導入
昭和50年	4月	新潟便開始	3月	成田低温センター内に自動製氷機設備設置	
	7月	札幌営業所開設	7月	盛岡支店、低温センター第4次増築工事完成	
昭和52年	6月	第一次物流システム稼働 （コンピュータ処理開始）	平成16年	1月	車輛動態管理システム導入
昭和53年	2月	一般区域貨物運送事業免許	2月	第1回私募債発行（受託：七十七銀行）	
	10月	社名変更：株式会社 東配	9月	グリーン経営認証	
昭和54年	11月	大型量販店向け配送業務開始	平成17年	7月	平成17年度エネルギー使用合理化事業者 支援補助金交付決定（NEDO） 石巻低温センター完成（（株）岡崎運輸 石巻営業所）
昭和55年	9月	大阪便開始	8月	「い〜LogiNavi」商標権取得	
昭和56年	1月	札幌営業所、自社社屋完成、移転	平成18年	8月	新第3低温センター完成
昭和58年	2月	自社低温加工センター完成	平成21年	6月	シンボルマーク・企業イメージキャラクター変更
	9月	早朝便（山形・福島）開始	7月	第4センター開設	
昭和59年	6月	リアルタイム対応新輸送システム稼働	平成22年	11月	新港センター開設
昭和60年		顧客との物流EDI化開始	平成23年	3月	東日本大震災により仙台空港（営）を本社運輸事業部へ統合 東日本大震災により岡崎運輸石巻営業所を塩釜本社へ統合
	4月	小口貨物取扱事業（宅急便取扱店）開始	平成24年	3月	第4センターを新港センターへ統合 第2次配車支援システム稼働
	11月	塩釜営業所開設（現：（株）岡崎運輸）	平成27年	6月	シンボルマーク・企業イメージキャラクター変更
昭和61年	1月	低温センター完成、本社全面移転 （現：第1低温センター）	平成30年	3月	新港センターを第3センターへ統合
昭和63年	4月	成田営業所開設	3月	優秀安全運転事業所表彰 銅賞受賞	
平成元年	10月	資本金 2,100万円に増資	6月	自動車・観光関係功者 特別功労表彰受賞	
平成5年	11月	大型冷蔵冷凍車輛にモバイルFAX搭載	令和元年	9月	創業50周年記念感謝の会举行
平成6年	6月	盛岡低温センター完成（現：盛岡支店）	10月	創業50周年テレビCM放送開始	
平成8年	1月	本社第2低温センター完成			
	5月	配車支援システム稼働			
	9月	第3低温センター改装工事完成			

お問い合わせ

■ 関東から商品を引取、地方などに配送する場合や関東・関西方面への配送依頼は

関東事業部関東課

TEL. 022-239-1011 FAX. 022-239-0790

■ 宮城県内から東北の各県への配送依頼は

運輸事業部東北課

TEL. 022-239-1023 FAX. 022-239-0720

■ 宮城県内から北海道方面への配送依頼は

運輸事業部北海道課

TEL. 022-239-1021 FAX. 022-239-0725

■ 宮城県内、仙台市内の各冷蔵庫などからの集配依頼は

集配事業部集配課

TEL. 022-239-1025 FAX. 022-239-0720

■ 弊社第1・第2・第3低温センターへの納品の問い合わせは

運輸事業部センター課

TEL. 022-239-1023 FAX. 022-239-0720

■ 仙台市中央卸売市場内の場内配達、荷扱、包装資材販売のことなら

市場事業部

TEL. 022-232-8353 FAX. 022-232-8328

■ 北海道から全国への配送依頼は

札幌営業所

TEL. 011-622-1081 FAX. 011-642-1042

■ 岩手県内から全国への配送依頼は

盛岡支店

TEL. 019-639-1081 FAX. 019-639-1084

■ 成田国際空港に到着する商品引取や千葉県内から全国への配送依頼は

成田営業所

TEL. 0476-24-8898 FAX. 0476-22-1323

物流ソリューション

お客様の課題を解決し
最適な物流をご提案します

私たち東配は、自らを「生産者・供給者の代行人」と位置付けています。マーケットニーズに応える物流の高品質化を図ると同時に、お客様の業務負担とコストの削減を実現するのが私たちの役割です。確かな実行力を伴った提案力により、物流部門のあらゆる課題を解決します。



提案力のある3PL企業として、さまざまな物流戦略をサポートします

商品ライフサイクル短期化やサービス競争激化といったマーケット動向に対応していくために、生産者・供給者側における物流部門の負担は日々増加し、課題も多様化し続けています。東配の物流ソリューションは、そうした状況を踏まえた上でお客様のご相談内容から課題を抽出し、最適な解決方法を提案し、実行するまでの総合的な物流改革です。効率的で正確な輸送はもちろんのこと、在庫管理や受注業務など物流部門の業務を一貫して請け負うサードパーティ・ロジスティクス（3PL）企業として、お客様の物流戦略を強力にサポートします。



東配ならではの総合力を生かし、信頼に足るイコールパートナーに

東配の物流ソリューションは、創業以来の豊富な経験により蓄積されたノウハウ、合理化・効率化を追求した最新システム、さらに食品輸送専門業者による全国ネットワークなどを基盤としています。お客様は配送依頼をされるだけで、集荷から保管・在庫管理・梱包・流通加工・各種事務・輸配送まで、すべて東配にお任せいただけます。物流業務負担・コスト削減に向けてサプライチェーン・マネジメント（SCM）の導入をお考えの際には、ぜひ私たちにご相談ください。信頼に足るイコールパートナーとして、お客様の物流部門を担います。



物流を最適化し、コスト削減を実現する

TOHAI Logistics



物流ネットワーク

お客様の課題を解決し
最適な物流をご提案します

東配の物流ネットワークは、全国の協力会社（100社）との提携による充実した定期便路線で輸配送を行っており、1日あたり最低でも750社へ商品をお届けしています。各路線に中央・地方卸売市場、問屋、量販店配送センターなどが網羅されているため、お客様は配送先ごとに運送会社を変える必要がありません。また、ご要望に応じてチャーター便や臨時便も随時運行可能です。多彩な物流計画を実現できる使い勝手の良さが強みですので、ぜひお客様の自社ネットワークのようにご活用ください。



第1低温センター

仙台市若林区卸町四丁目8-12
延べ床面積 2,957.75m²
冷温倉庫 (+5°C) 1,382.00m²



札幌低温センター

札幌市中央区北12条西19丁目
延べ床面積 513.21m²
冷温倉庫 (+5°C) 209.00m²
冷凍倉庫 (-25°C) 148.00m²



第2低温センター

仙台市若林区卸町四丁目8-12
延べ床面積 2,050.88m²
冷温倉庫 (+10°C) 588.00m²
冷凍倉庫 (-25°C) 200.00m²



盛岡低温センター

盛岡市湯沢16地割15-5
延べ床面積 2,540.34m²
冷温倉庫 (+0°C) 165.00m²
冷温倉庫 (+5°C) 235.00m²
冷温倉庫 (+10°C) 1,052.05m²
冷凍倉庫 (-25°C) 347.00m²



第3低温センター

仙台市若林区卸町四丁目1-12
延べ床面積 4,347.27m²
冷温倉庫 (+5°C) 2,018m²
チルド庫 (0~-5°C) 180m²
冷凍倉庫 (-30°C) 480m²



成田低温センター

成田市山之作字仲台270-3
延べ床面積 493.29m²
冷温倉庫 (+5°C) 232.00m²
荷受室 170.00m²



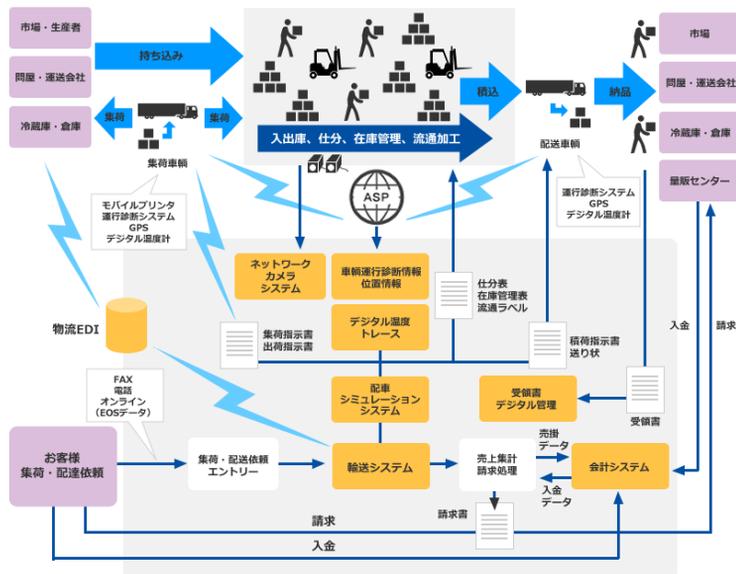
塩釜低温センター

塩釜市新浜町1丁目27番地1
延べ床面積 1,892.20m²
冷温倉庫 (+0°C) 33.00m²
冷温倉庫 (+5°C) 707.00m²

物流情報処理システム

豊富な経験と最新システムで
正確な物流をお約束します

東配では、お客様からの配送依頼に基づき、集荷から入庫・仕分け・輸配送車両への指示・各種事務処理までを一貫した情報処理システムで行っています。さらに、経験豊富な配送計画者のノウハウを導入して配送シミュレーションシステムを増強し、より高度な効率化を推進し続けています。



◆車両位置管理システム



GPSによって車両位置情報をリアルタイムで把握し、適切な運行指示を行うとともに、集荷依頼や配送状況の確認などに迅速にお応えします。

◆配車シミュレーションシステム



経験豊富な配車担当者のノウハウを導入し、季節的な波動やその日の物量の変化に応じて最適な配送コースを設定します。

◆ネットワークカメラシステム



お客様の大切な荷物を守るため、センター各所をネットワークカメラで24時間監視しています。カメラの映像は本社オフィスで適切に記録・管理しています。

◆物流EDI



東配は、物流で発生するさまざまな情報のEDIに柔軟に対応しています。配送依頼を基に集荷、配送、ご請求に至るまで一貫して管理を行うことで、いつまでもお客様と共通の情報で物流の管理が行えます。

◆ドライブレコーダー



危険運転の事例などを記録・管理し、ドライバーにフィードバックして事故防止につなげます。

◆モバイルオートプリンタ



各車両にモバイルオートプリンタを搭載し、視覚情報の指示を送ることで効率的かつ正確な集荷を実現。急な配送先変更などへの対応にも効果を発揮します。

◆受領書デジタル画像管理システム



納品先でいただいた受領書はイメージデータとして保存・管理しています。お客さまからのお問い合わせに対し、いつでも正確・迅速にお答えします。

◆デジタル温度トレース



商品特性ごとに異なる温度帯を設定した多目的配送センターや冷蔵冷凍車両内のデジタル温度計のデータを記録・管理し、高度な品質管理を行います。

◆バックモニター



輸配送中の事故防止はもちろんのこと、倉庫搬入口に荷物を接する際の正確な位置合わせをサポートし、安全を確保します。

地球環境保全への取り組み

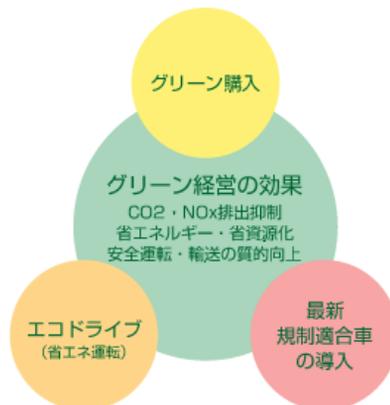
地球環境と共存した物流を目指して

私たち東配の回答は「グリーン経営」です。

私たち東配では、社員全員が地球環境の保全に貢献する為に「環境基本方針と行動指針」を策定し、事業活動と物流のあらゆる場面で「地球環境保全」という視点から価値判断を行い意思決定しています。行動の中心として位置付けているのは、最新規制適合車の導入とエコドライブ（省エネ運転）の実践です。私たち東配は、社員一人一人が環境保全の大切さを理解し「環境にやさしい運転」が出来る人材育成を行っています。環境にやさしい運転「エコドライブ」の基本は

1. アイドリング・ストップ
2. 経済速度での走行
3. 急発進・急加速・急ブレーキをやめ適切な車間距離の確保

など安全運転の励行であります。運転技術を向上させエコドライブを行うことにより燃料の年間消費量は約30%削減出来る上、車社会における交通ルールの遵守にも繋がります。私たち東配は「グリーン経営」を通して、地球環境保全活動と交通安全を推進する企業として社会に貢献していきたいと考えています。



環境理念

株式会社東配における「環境方針」は、当社にある各部署・各支店営業所の事業活動を通して、燃費の節約や電力・消耗品の節約に努力し地球環境の保全と豊かな社会の実現に貢献することを目指します。



運行診断・動態監視システムの導入と運転技術講習会の定期的開催

全車輻に搭載したこのシステムは、ドライバーの運転を

1. アイドリング
2. 一般走行の車速
3. シフトアップ回転数
4. 巡航ギア段の選択
5. 高速走行の車速
6. 高速走行のアクセル操作
7. ブレーキペダルの踏み方
8. エンジンブレーキの使い方
9. 補助ブレーキの使い方



から診断して、一ヶ月間の運転における燃料の消費量を判断していくものです。多くのドライバーが講習前には総合評価40点台ですが、講習後は70点台にとアップします。その結果、年間の燃料消費量は30%程度削減できることとなります。

環境理念

- ① エコドライブ [省燃費運転] を全車輻で実践する。
- ② 営業用ディーゼル車の燃費を改善し燃料使用量を削減する。
- ③ 最新規制適合ディーゼル車の導入でNOx・PM値を大幅に削減する。
- ④ ディーゼルフォークリフトからCNGフォークリフトや電気式フォークリフトへの代替の推進。
- ⑤ 使用済み配送用資材や事業系一般廃棄物をリサイクル事業者で再利用させる。
- ⑥ グリーン購入を積極的に行う。